

看護を拡張するAI

対話と実践のイネイブラー

『AIとリハビリテーション看護ービジョンと対話がすべて！ー』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

看護の原点は、患者の「どう生きたいか」から始まる

現代の看護は、単なる治療やケアの提供ではない。患者一人ひとりが持つ人生のビジョンを深く理解し、その実現に向けて伴走するパートナーシップである。すべての技術は、この目的のために存在する。

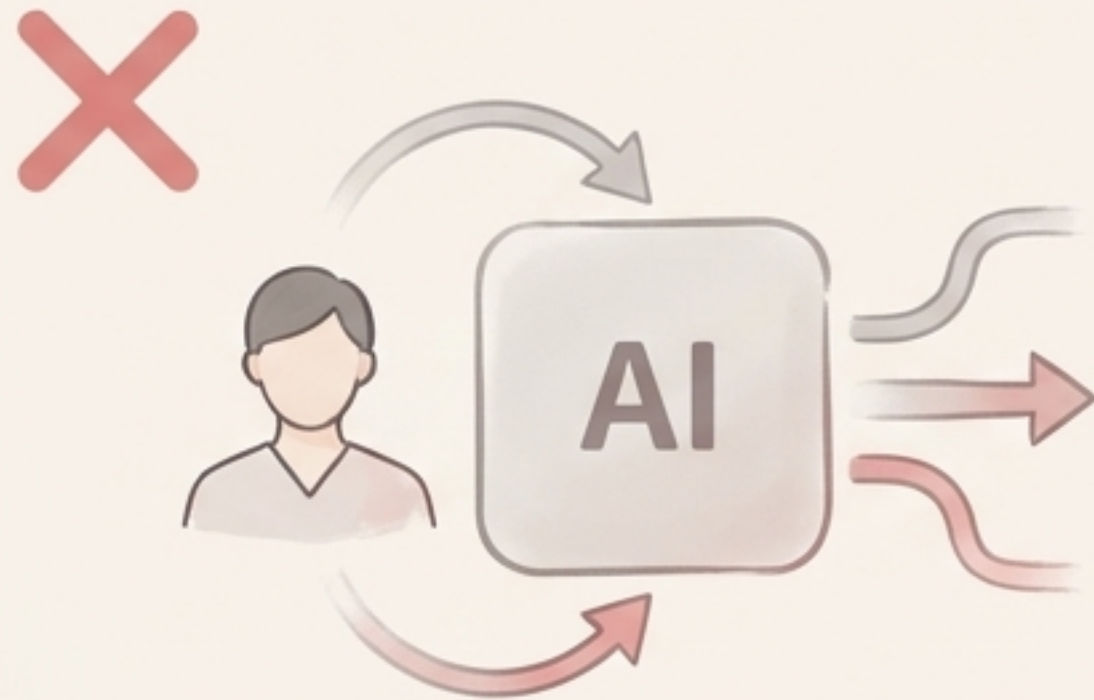


『AIとリハビリテーション看護ービジョンと対話がすべて！ー』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

AIは「代行者」ではなく、「イネイブラー」である

AIの役割は、看護師の判断や対話を代行することではない。
むしろ、看護師がより良い実践を行うことを可能にする「イネイブラー」として機能する。



代行者 (Replacement)



イネイブラー (Enabler)

イネイブラー (Enabler)：人が本来持つ能力を最大限に引き出し、目的の達成を可能にする存在。

『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

AIが可能にする、6つの看護実践

では、AIネイブラーは具体的にどのような領域で看護師の対話と実践を拡張するのか。
6つの具体的なユースケースを紹介する。



『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

Theme 1: 患者の未来を共に描く



① 一人ひとりに合った退院後 リハビリ計画の作成

患者のビジョンと生活背景に基づき、最適な計画の「たたき台」を作成する。



⑤ 患者のビジョンを引き出す ためのコーチング支援

患者が「どう生きたいか」を自ら語るための対話を設計する。

『AIとリハビリテーション看護ービジョンと対話がすべて！ー』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

一人ひとりに合った退院後プランの 「たたき台」を作る



患者のビジョン・生活環境・身体状況をもとに、リハビリ計画案を複数提示・整理。

- 生活背景・家屋状況・家族構成まで踏まえた具体的な選択肢を生成。
- 看護師が多角的に検討し、最終的な判断・選択を行うための「たたき台」として機能。

Patient Input	Plan Draft
患者のビジョン 庭の手入れを続けたい	プランA: 訪問リハビリ中心 専門家による個別指導。自宅でのADL改善に焦点。 看護師の評価：体力への負担を考慮。
家屋状況 玄関に3段の階段あり	プランB: 通所リハビリ活用 社会参加の機会を提供。他者との交流を促進。 看護師の評価：移動手段の確保が課題。
家族構成 一人暮らし	プランC: 地域資源連携 地域のボランティアや見守りサービスを活用。 看護師の評価：本人の自立度を重視。

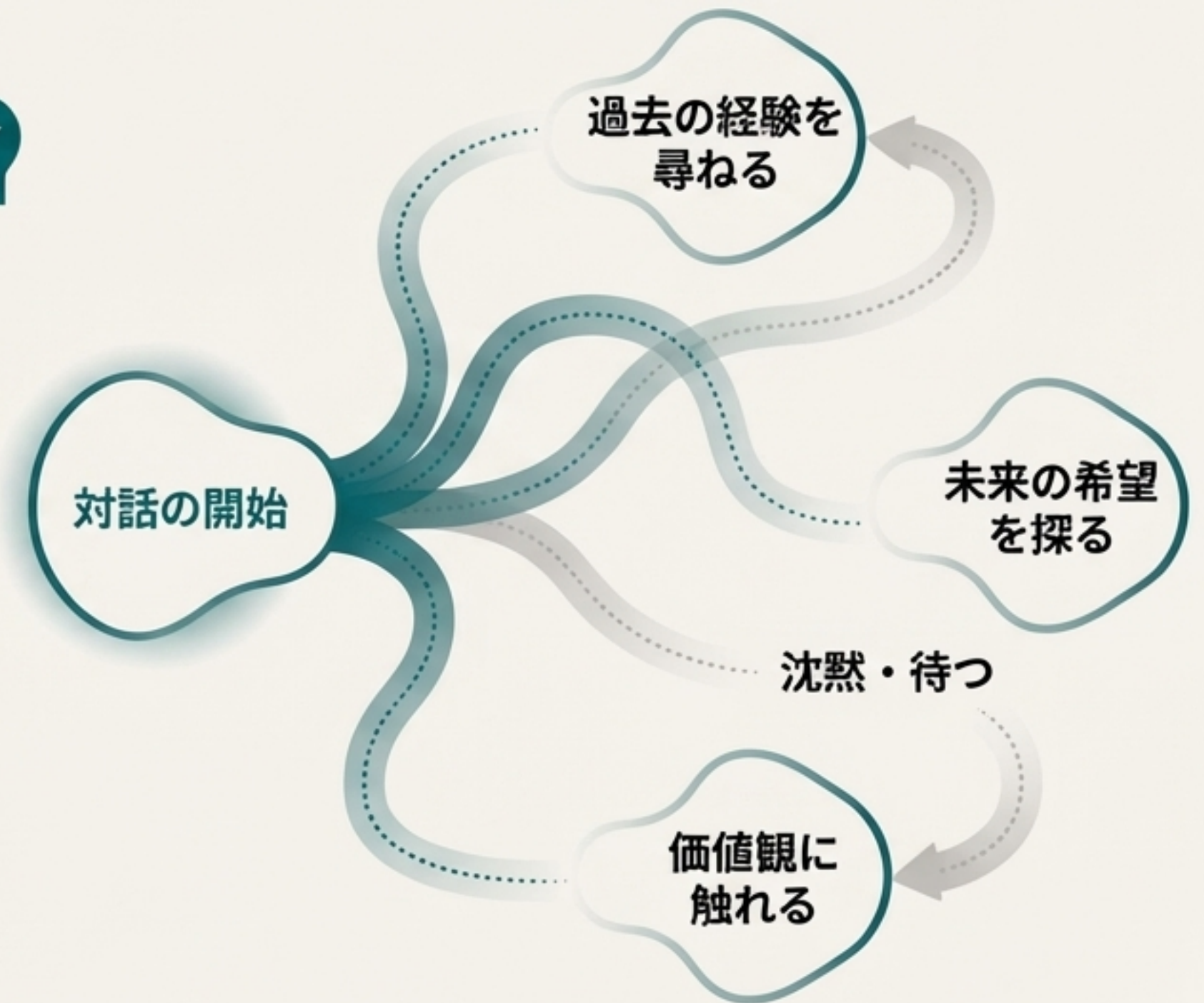
『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

患者が「どう生きたいか」を語るための対話を設計する

患者が自身の言葉でビジョンを語るための、問いや対話の構成を支援。

- 「押し付けない問い」の提案で、患者の自発的な語りを促す。
- 看護師が「待つ」ことを含めた対話全体の流れをデザインする。



『AIとリハビリテーション看護ービジョンと対話がすべて！ー』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

Theme 2: 対話と現実の解像度を高める



② 困難性の高い患者との対話コーチング

複雑な対話に備えるための安全な「壁打ち相手」となる。



③ 患者自身による在宅生活課題の可視化支援

患者と医療者が「同じ現実」を見るための共通言語を作る。



『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

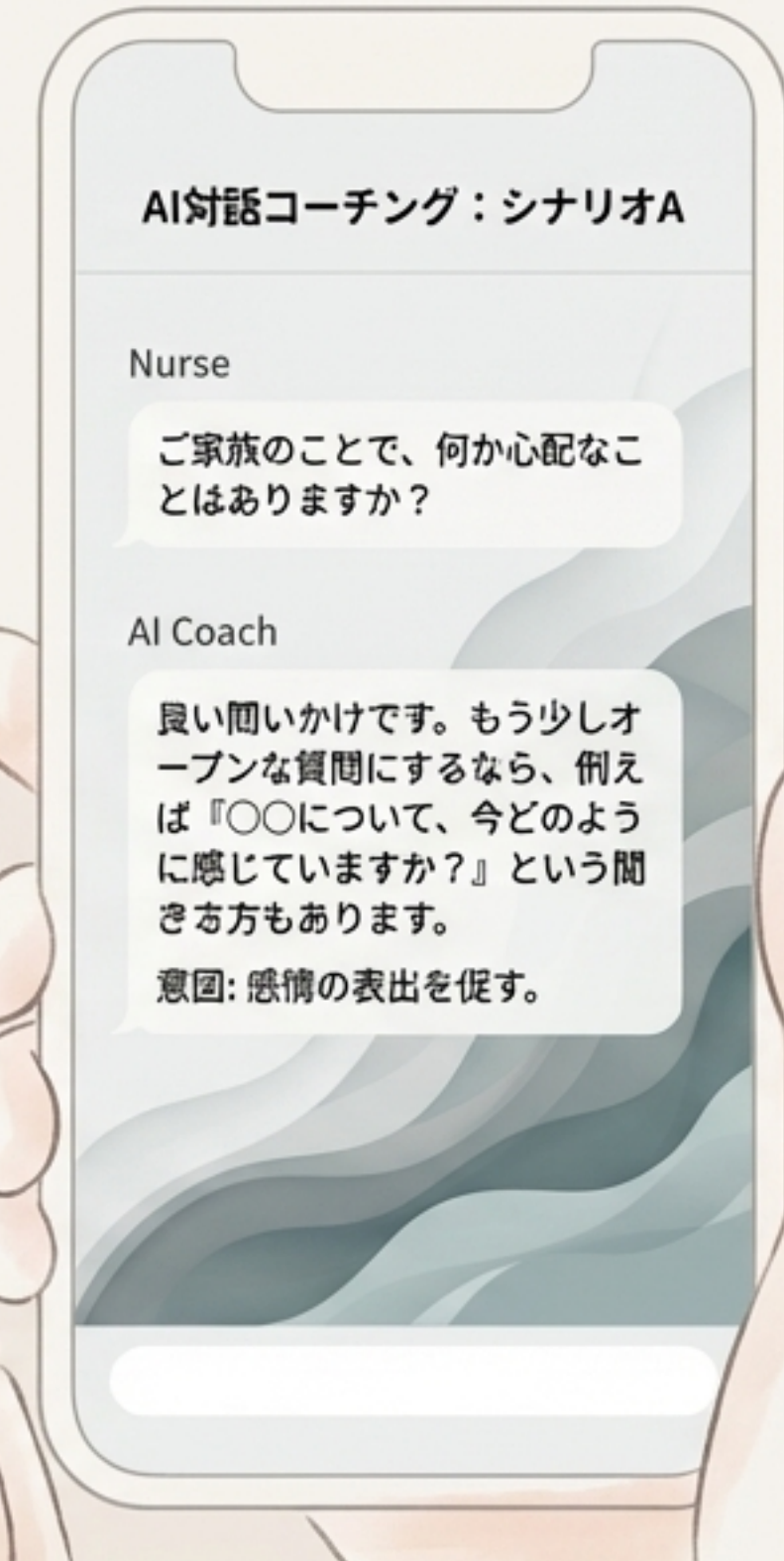
日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

複雑な背景を持つ患者との対話に備える『壁打ち相手』



感情的・複雑な背景をもつ患者との対話を想定したコーチングと練習。

- どのような問いかけが有効か、AI相手にシミュレーションできる。
- 看護師自身の言葉を事前に整理し、自信をもって対話に臨むための『壁打ち』相手。



『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より



患者と医療者が 「同じ現実」を見るための 可視化ツール

患者が撮影した写真をもとに、退院後の
生活上の課題を一緒に整理・共有。

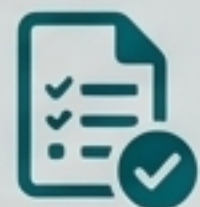
- 写真に印をつけ、段差・動線・危険箇所などを具体的に指摘。
- 言葉だけでは伝わりにくい「現実」を共有し、共通の認識を構築する。



『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

Theme 3: 看護実践そのものを深化させる



④ 社会資源・制度活用 of 整理と チェックリスト作成

複雑な情報を整理し、見落としを防ぐための思考支援。



⑥ 計画・対話・判断プロセスの 俯瞰と振り返り

自身の思考プロセスを客観視し、実践を言語化する。

『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より



複雑な社会資源・制度の活用から「見落とし」を防ぐ

患者の状況に応じた社会資源・制度・支援サービスを整理し、チェックリストを作成。

- 介護保険、地域資源、福祉サービスなど、多岐にわたる選択肢を網羅的に一覧化。
- 看護師が思考を整理し、提案の**見落としを防ぐ**ための強力な支援ツール。

Patient Profile

Age: 82

Condition: Post-stroke

Location: Setagaya-ku

活用可能な社会資源

介護保険

☐ 訪問介護

☐ 福祉用具貸与

地域資源

☐ 配食サービス

☐ 地域包括支援センターへの相談

福祉サービス

☐ 障害者手帳の申請

『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

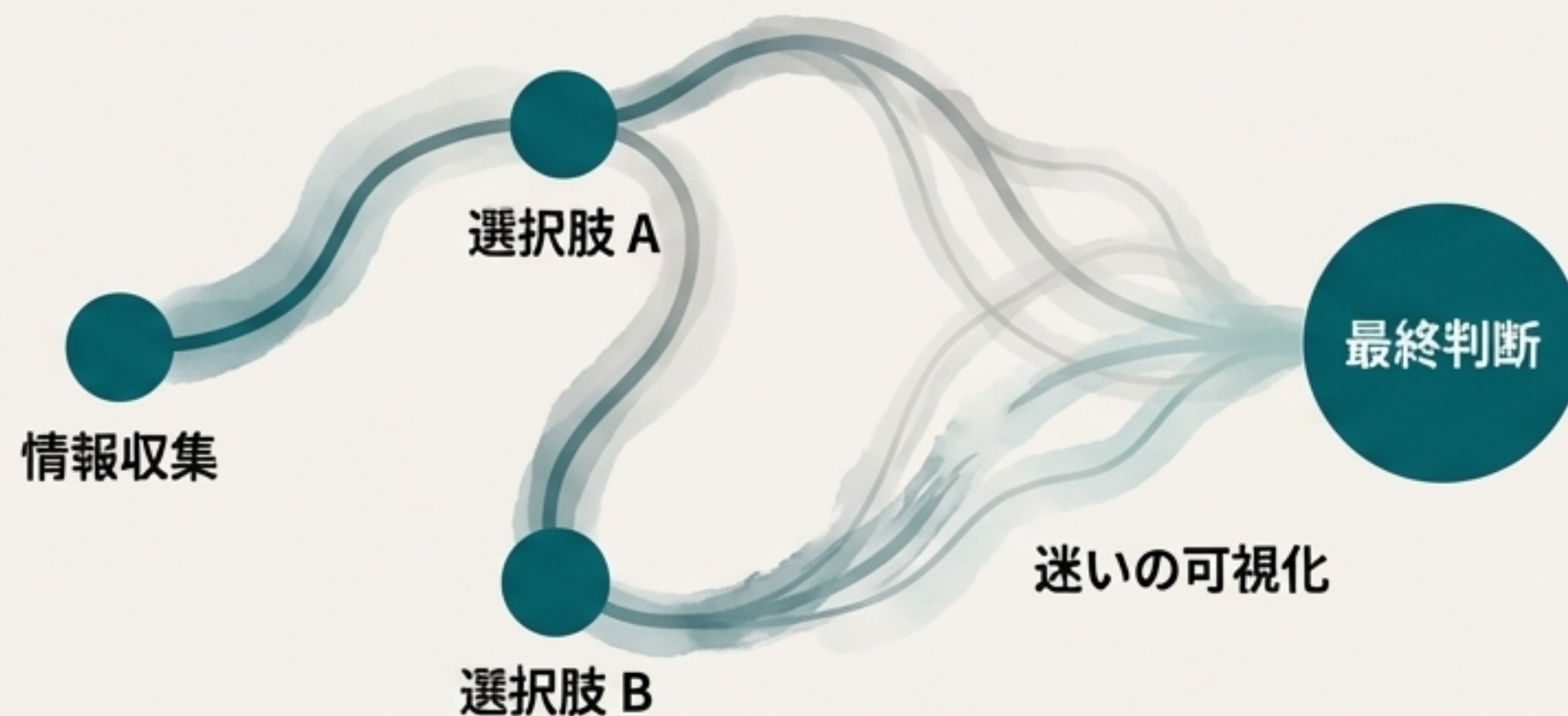
日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より



自身の思考プロセスを客観視し、 学びを次に繋げる

看護師自身が「どのように考え、判断し、どこに迷いがあったか」を俯瞰するための振り返り支援。

- 暗黙知となりがちな**実践の言語化**をサポートする。
- 個人の経験を、チーム全体の学びに繋げ、看護の質を継続的に向上させる。



『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

AIは「答え」を出す のではなく、 看護師の「問い」を 深化させる

これら6つの実践が示すように、AIイネイブラーは看護師の判断を代替しない。むしろ、情報整理、対話準備、客観的振り返りを支援することで、看護師が共感や倫理的判断といった、人間にしかできない専門性に集中することを可能にする。



『AIとリハビリテーション看護—ビジョンと対話がすべて！—』
日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より

AIは、判断や意思決定を代行する存在ではない。患者のビジョンを起点した看護実践を支える「イネブラー（可能化する存在）」である。

『AIとリハビリテーション看護ービジョンと対話がすべて！ー』

日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会 鈴木敏恵 講演 より